

額消化するなどかなりの増額となった。

4月の金融債純増額は、764億円と前月(461億円)を大幅に上回った(前年同月370億円)。これは、利付金融債が消化地合いの堅調を映じて633億円(前月540億円、前年同月426億円)とかなり増加したほか、割引商工債券が前月年度末買入れ消却の関係で大幅減少したあと再び増加したことなどのためである。

増 資 状 況

	上場会社合計			うち 市場第1部 上場会社		
	社数	金額 億円	前年 億円	社数	金額 億円	前年 億円
45年10～12月	97	1,711	814	56	1,598	700
46年1～3月	75	939	1,133	39	833	884
46年 3月	41	284	752	21	223	633
4月	15	250	185	9	236	153
5月	29	256	178	15	222	149

起 債 状 況

(単位：億円、カッコ内は純増額)

	45年	46年	46年			45年
	10～ 12月	1～3月	3月	4月	5月	5月
事業債	1,460*	1,609*	572	576	708	450
うち 電力	(634)	(794)	(297)	(322)	(431)	(212)
一般	823	970	355	331	438	244
地方債	(343)	(500)	(195)	(172)	(271)	(109)
政保債	235	240	81	75	77	75
	(133)	(93)	(31)	(33)	(38)	(34)
計	792	500	149	200	210	210
	(381)	(150)	(110)	(36)	(51)	(95)
金融債	2,487*	2,349*	802	851	995	735
うち 利付	(1,149)	(737)	(218)	(394)	(520)	(341)
新規長期国債	9,547	8,270	2,877	2,771		2,112
うち 証券会社引受分	(3,540)	(1,634)	(461)	(764)		(587)
	3,028	3,510	1,269	1,190		736
	(1,270)	(1,582)	(540)	(633)		(345)
	1,000	350	200	900	300	300
	(921)	(350)	(200)	(900)	(300)	(300)
	92	51	16	33	32	33
	(92)	(51)	(16)	(33)	(32)	(33)

(注) *印は電力債別枠発行分(45年11月72億円、46年2月83億円)を除く。

実体経済の動向

◇生産・出荷とも4月は反動減

(生産——4月は減少)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は、3月に+2.2%と増加したあと4月(速報)は-1.6%の減少を示した。3か月移動平均の前月比では1月+1.0%、2月+0.7%、3月+0.2%となっている。なお、原計数の前年同月比伸び率は+5.3%(3月+8.4%)と再び低下した。

特殊分類別にみると、一般資本財が大幅に減少(-6.9%)したほか、生産財(-1.6%)、非耐久消費財(-1.2%)も減少、反面耐久消費財はかなりの増加(+2.5%)を示した。品目別の動きをみると、一般資本財では大型重電機器、風水力機械、

金属加工機械等が減少を示した。生産財では鉄鋼が減産を続け、合繊糸、繊維原料、一般機械部品等も減少した。一方、耐久消費財の増加は主としてカラーテレビおよびエアコンディショナーの増産によるものであり、乗用車は各車種にわたって減少を示した。建設資材は鉄骨、アルミサッシを中心に若干の増加(+1.7%)となっている。

(出荷——3月著増のあと4月は反動減)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、3月に+6.0%と大幅増加のあと、4月(速報)は-2.3%(船舶を除くと-3.8%)と反落した。もともと、3か月移動平均値の前月比では、1月+0.9%、2月+1.2%、3月+1.0%と生産をや

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減率・%)

	45年				46年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	216.0	221.5	220.2	224.5	222.9	227.7	—
指数							
前期(月)比	5.1	2.6	-0.6	2.0	0	2.2	-1.6
前年同期(月)比	18.4	16.9	10.8	8.7	7.9	8.4	5.3
投資財	6.5	3.8	1.6	4.5	0.6	2.1	-3.6
資本財	6.3	5.7	2.2	5.5	1.2	3.4	-5.3
同(輸送機械を除く)	6.1	7.5	2.7	6.1	0.4	2.6	-6.9
輸送機械	7.4	-1.0	2.3	4.4	2.3	3.7	—
建設資材	6.2	-1.0	-0.1	1.3	-2.4	-1.3	1.7
消費財	6.2	1.5	-2.9	1.2	0	1.8	1.5
耐久消費財	5.8	2.0	-3.6	0.8	1.0	2.8	2.5
非耐久消費財	4.8	1.3	-1.8	2.1	-1.1	1.2	-1.2
生産財	2.9	1.6	-0.4	0	-0.6	1.6	-1.6

(注) 1. 通産省調べ、46年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減率・%)

	45年				46年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	205.4	210.9	209.6	214.5	210.0	222.5	—
指数							
前期(月)比	1.3	2.6	-0.6	2.3	-0.4	6.0	-2.3
前年同期(月)比	15.4	14.3	8.2	6.0	4.5	7.2	7.0
投資財	2.1	3.1	2.3	2.1	-0.7	7.1	-1.0
資本財	0.4	4.5	3.2	4.2	-0.7	8.6	-1.1
同(輸送機械を除く)	2.2	7.4	-0.3	6.1	-2.0	6.6	-10.4
輸送機械	-4.2	0.2	9.3	-2.6	1.3	11.0	—
建設資材	6.5	-0.5	0.2	-0.3	-2.1	2.1	0.4
消費財	2.2	2.7	-3.4	4.1	-0.9	6.7	-2.1
耐久消費財	3.3	2.9	-3.2	2.0	-1.2	12.7	-2.4
非耐久消費財	0.9	3.3	-3.2	4.8	-0.1	3.1	-2.6
生産財	0.9	1.7	-0.6	0.4	-0.2	4.0	-2.5

(注) 1. 通産省調べ、46年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

や上回る増加となっている。なお、原計数の前年同月比は+7.0%とほぼ前月(+7.2%)並みであった。

特殊分類にみると、資本財輸送機械、建設資材を除き、各財ともかなりの減少を示した。このうち、一般資本財の減少がとくに大幅(-10.4%)であるが、これには重電機器、金属加工機械の減

少のほか、前月著増した銅電線ケーブルの反動減も響いている。生産財(-2.5%)では、生産と同じく鉄鋼、合繊糸等が減少しており、耐久消費財(-2.4%)はカラーテレビが引き続き増加したものの、エアコンディショナーおよび乗用車(とくに軽乗用車)の減少が目だった。また非耐久消費財(-2.6%)では紙や需要期明けの灯油が減少した。

(製品在庫——小幅の増加)

製品在庫は前月減少(-0.7%)のあと、4月(速報)も+1.0%と比較的小幅の増加にとどまり、前年同月比の水準は+25.5%(3月+27.6%)となった。

財別の動きは区々であり、資本財輸送機械、生産財(-0.3%)および建設資材(-1.6%)が減少の反面、一般資本財は大幅に増加(+6.0%)、また耐久消費財(+2.1%)も4か月ぶりの増加となった。

おもな品目の動きをみると、一般資本財の増加は銅電線ケーブルの反動増によるところが大きく、また耐久消費財では需要不振による軽乗用車の在庫増のほか、需要期を控えた夏物家電製品の

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減率・%)

	45年				46年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱工業	199.1	211.5	233.1	238.1	239.8	238.1	—
指数							
前期(月)末比	7.3	6.2	10.2	2.1	1.9	-0.7	1.0
前年同期(月)末比	18.3	21.6	25.7	27.6	29.4	27.6	25.5
製品在庫率	94.4	99.6	108.4	107.0	114.2	107.0	110.6
投資財	13.7	8.3	15.3	9.3	4.1	2.3	1.7
資本財	17.9	8.8	22.2	12.8	4.4	4.0	3.6
同(輸送機械を除く)	17.0	13.9	20.6	10.8	4.9	2.8	6.0
輸送機械	20.9	-10.6	26.4	15.6	5.0	5.0	—
建設資材	8.3	8.0	5.4	5.9	1.8	1.4	-1.6
消費財	6.1	3.9	9.6	-3.2	0.7	-2.6	2.1
耐久消費財	8.2	4.5	0.8	0.1	0.9	-1.2	2.1
非耐久消費財	5.4	1.1	15.8	-3.5	0.4	-2.1	2.2
生産財	7.0	6.9	7.6	5.7	2.4	0.5	-0.3

(注) 1. 通産省調べ、46年4月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

増加が目だっている。非耐久消費財(+2.2%)では灯油、メリヤス製品が若干増加した。一方、生産財では化学肥料、合繊糸、電子部品等が減少しており、建設資材ではコンクリート管、同パイプ等が小幅の減少を示した。

以上の結果、4月の製品在庫率指数は110.6と前月(107.0)比+3.6ポイント上昇した。もっとも、その水準は2月(114.2)ほどではなく、3ヵ月移動平均でも、1月111.4、2月110.9、3月110.6となっている。

(原材料在庫——小幅ながら引き続き増加)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は、3月に+3.1%と大幅増加のあと、4月(速報)も+1.0%と小幅ながら引き続き増加した。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年			46年		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
在庫指数	170.0	173.0	184.9	179.2	184.9	186.8
前期(月)末比	6.6	1.8	6.9	0.3	3.2	1.0
国産分	5.1	1.1	6.5	0.2	3.7	0.6
素原材料	7.1	3.6	22.2	1.9	7.7	5.8
製品原材料	5.3	-0.1	1.8	-0.2	2.6	-1.0
輸入分	11.3	4.6	8.5	-0.1	2.6	0.7
素原材料	11.3	5.1	9.2	-0.1	2.5	0.9
在庫率指数	83.8	85.6	91.1	88.9	91.1	93.6
国産分	79.9	81.1	86.1	83.5	86.1	88.1
素原材料	88.8	92.7	116.5	107.8	116.5	126.1
製品原材料	80.7	81.0	81.8	80.3	81.8	82.2
輸入分	94.5	98.5	105.5	105.2	105.5	107.6
素原材料	94.0	98.0	105.4	104.4	105.4	107.8

(注) 通産省調べ、46年4月は速報。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	45年			46年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
総合指数	177.3	184.3	187.6	186.1	186.1	187.6
前期(月)末比	2.9	3.9	1.8	1.0	0	0.8
素原材料	3.9	12.0	3.8	-2.6	1.7	4.8
製品	2.3	3.2	2.0	1.2	0.1	0.7

(注) 通産省調べ、46年3月は速報。

特殊分類別にみると、国産分は製品原材料が落ち着いた推移(1~3月前期比+1.8%、4月-1.0%)を示しているものの、素原材料が跌くず等を中心に前月(+7.7%)に続き大幅に増加(+5.8%)したため、全体では+0.6%の微増となった。輸入分はこのところ高い伸びを続けていたが、4月は+0.7%と微増にとどまった。

(販売業者在庫——ほぼ横ばい)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は2月に横ばいのあと、3月(速報)も+0.8と小幅の増加にとどまった。このため、1~3月中の増加は+1.8%と前期(+3.9%)よりかなり小幅にとどまっており、在庫調整の進捗がうかがわれる。

3月の動きを主要品目についてみると、民生用電気機械がテレビの在庫減らしの進捗を中心にかんがりの減少を示したほか、自動車、洋紙等も若干の減少となった。一方、鋼材および繊維はいずれもほぼ横ばいにとどまった。

(設備投資——4月の関連指標は大幅反落)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は3月に+6.6%とかなり増加したあと、4月(速報)は-10.4%と大幅に減少した。3ヵ月移動平均値でみると、1月+1.4%、2月+0.8%、3月-2.1%となり、出荷の基調はこのところやや弱含みにかがられる。4月の動きを主要機種別にみると、化学機械や農業機械がかなり増加したものの、大型重電機器が前月に続き減少し、またこのところ受注残の減少している金属加工機械(工作機械、圧延機械)もかなりの減少を示した。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は3月に+47.3%と著増のあと、4月は-42.1%と大幅に反落した。これは、電力からの発注の遅れによる影響のほか、期末決算対策もあってメーカーが前月集中計上したことの反動による面が大きいとみられる。受注先別にみると、製造業では造船が引き続き増加したものの、鉄鋼、機械、自動車、石油等の大幅減少が響いて、全体

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	45年			46年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
民需	2,670 (+6.4)	2,421 (-9.3)	2,718 (+12.3)	1,920 (-29.6)	3,508 (+82.7)	2,089 (-40.4)
同(船舶を除く)	2,370 (+3.6)	1,934 (-18.4)	2,356 (+21.8)	1,917 (-17.6)	2,823 (+47.3)	1,636 (-42.1)
製造業	1,344 (-8.0)	1,087 (-19.1)	1,110 (+2.2)	1,022 (+6.9)	1,354 (+32.5)	978 (-27.7)
非製造業	1,314 (+25.3)	1,388 (+5.6)	1,578 (+13.7)	890 (-49.6)	2,079 (+133.7)	1,105 (-46.9)
同(船舶を除く)	1,026 (+22.4)	867 (-15.5)	1,267 (+46.0)	915 (-33.8)	1,500 (+64.0)	683 (-54.5)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

では-28%の反落となった。また非製造業も電力を中心に大幅減少(-55%)を示した。

建設工事受注額(民間分、季節調整済み、前月比)は3月+72.6%と著増のあと、4月(速報)は-39.6%と大幅に減少した。原計数の前年同月比も3月に+49.2%と久方ぶりに前年水準を大きく上回ったあと、4月は-12.4%と再び前年を下回った。なお、3ヵ月移動平均値の前月比は、1月-1.0%、2月+10.3%、3月-1.8%となっている。

◇商品市況は総じて弱保合い

5月にはいつてからの商品市況をみると、綿糸、石油製品、セメント、板紙等が堅調の反面、銅が続落し、鉄鋼(条鋼類)も弱気配となったほか、スフ糸、木材、化学品等も弱含みに推移し、総じてみれば弱保合い商状となった。

このように、商品市況が下げ止まり感をみせながらも反発力を欠き、弱気配を払拭しきれないのは、弱電、自動車関連等一部商品に多少需要回復の動きがうかがわれる(薄板、合成樹脂、段ボール原紙)ものの、全体として実需が依然伸び悩みを続けているため、そのほか国際商品市況の軟化(銅、すず)や梅雨期控えといった季節事情(条鋼類、木材)も影響している。このため、生産調整の継続にかかわらず、多くの業種で在庫水準が

なお高く、需給関係ははかばかしい改善を示していない。

このような状況下、問屋、ユーザー筋の仕入れ態度にも再び慎重さが目だっている(鉄鋼、銅、クラフト紙)。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼………冷延薄板、厚板等は保合いで推移したが、形鋼が月後半に至り一部品種を除き反落し、また棒鋼、亜鉛鉄板も軟化するなど、総じて弱含みとなった。

この間、特約店等流通段階の買付け態度をみると、金融緩和の進展などにもかかわらず、連休明け後も実需の増加がみられないうえ、目先梅雨期を控えていることもあって、再び模様ながめに転じているところが多いようである。

繊維………スフ糸は続落したが、綿糸がじり高商状を続け、そ毛糸、人絹糸、生糸等も月央以降若干値上がりないし強含みを示した。これは、織物の売れ行き持直しや糸在庫の減少(綿糸)、輸出好伸(一部合織)などの要因も指摘できるが、むしろ綿糸の値上がりについては原綿高やストによる供給減懸念といった特殊要因、また人絹糸、そ毛糸、生糸等ではおもわく筋の買い進みや定期市場における投機人気の高まりなど市場内部要因によるところが大きいものとみられる。

非鉄金属………鉛、亜鉛等は保合い商状を続けたが、銅は海外相場の続落を映じて月初来トン当たり約40千円の急落を示した。実需は全般に伸び悩んでおり、ユーザー、問屋筋の仕入れ態度も引き続き当用買いの域を出ていない。

石油製品………灯油が不需要期入りからやや軟化しているほかは、総じて堅調を持続しており、とくにA重油は公害規制強化に伴いB・C重油からの代替需要が増加しているため、若干需給が引き締まってきている。

なお、大口需要家(電力、鉄鋼、化学、バス)に対する重油、原油、原料ナフサおよび軽油の値上げ交渉は、電力、バス業界の一部との間で妥結をみつつある。

セメント……官公需関係工事の端境期入りもあり荷動きはひとところより鈍っているが、先行き地下鉄、私鉄、高速道路、大型ビル工事等の増加が予想されるところから、メーカー筋では値上げ意向が強く、市況も強含みに推移している。

木材……地場需要の台頭や農繁期入りといった事情もあって東京市場への入荷は減少傾向を続けているが、実需が依然として低迷しているため、相場は引き続き弱含んでいる。

化学品……合成樹脂では、塩ビ、ポリエチレン、ポリスチレン等が大口需要家からの引合い低調を映じ、保合ないし弱保合いとなっている。また基礎薬品類では、酸化チタン(塗料用原料)等に引合い増もみられるものの、硫酸、か性ソーダ、塩酸等おおかたの品目では需要先の生産調整を映じて荷動きが鈍く、弱保合いとなっている。

紙……洋紙では上質紙が底堅い動きを示したが、コート紙が軟弱地合いを続け、またこれまで比較的堅調のクラフト紙および純白ロール紙もメ

ーカーの値上げ一巡後はアウトサイダーの供給増もあってやや弱含みとなった。一方、板紙では、段ボール原紙が堅調のほか、白板紙も中元需要の台頭から値上げがようやく一部に浸透しはじめている。

砂糖……メーカー側の市況対策の足並みが必要ずしもそろっていないうえに、天候不順などの影響から冷菓向け需要が伸び悩み、清涼飲料向け需要も一部を除いて盛り上がりや欠いているため、国内現物相場(上白)は軟化した。

(卸売物価——4月は6ヵ月ぶりに上昇)

4月の卸売物価は、総平均で前月比+0.3%と昨年10月以来6ヵ月ぶりに上昇した(前年同月比では-0.8%)。もっとも月中の動きを旬別にみると、上旬は海外高を映じた非鉄金属、石油・同製品の高騰を主因に前旬比+0.3%となったあと、中・下旬は木材・同製品的大幅続落や鉄鋼の反落などもあって保合いで推移した。類別のおもな動きでは、非鉄金属、石油・石炭・同製品が続騰、

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)							
		44年度 平均	45年度 平均	46年			46年4月			46年5月	
				2月	3月	4月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
総平均	100.0	+ 3.2	+ 2.4	- 0.2	- 0.2	+ 0.3	+ 0.3	保合	保合	+ 0.1	- 0.1
食料品	15.7	+ 4.2	+ 2.4	+ 0.2	- 0.4	保合	- 0.1	- 0.1	+ 0.4	+ 0.7	- 0.6
繊維品	10.7	+ 0.4	+ 5.2	+ 0.1	- 0.2	- 0.4	- 0.4	- 0.2	- 0.1	+ 0.2	+ 0.1
鉄鋼	9.7	+ 11.3	+ 2.2	- 1.4	- 2.0	- 0.9	- 0.2	+ 0.1	- 0.5	- 0.5	+ 0.1
非鉄金属	4.4	+ 18.2	- 7.6	- 1.2	+ 4.2	+ 6.5	+ 3.7	+ 0.5	+ 1.8	- 1.2	- 1.0
金属製品	3.8	+ 3.0	+ 4.2	+ 0.1	- 0.2	- 0.2	保合	保合	- 0.1	- 0.4	保合
機械器具	22.1	+ 0.1	+ 1.5	- 0.1	- 0.1	保合	保合	保合	保合	+ 0.2	保合
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.5	+ 4.5	+ 0.7	+ 1.3	+ 3.1	+ 2.8	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.6	+ 0.2
木材・同製品	6.2	+ 3.0	+ 3.4	- 0.7	- 1.0	- 1.0	- 0.1	- 1.0	- 0.5	- 0.2	+ 0.5
窯業製品	3.0	+ 2.3	+ 4.8	保合	+ 0.3	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	- 0.1
化学品	7.6	- 0.4	+ 0.5	+ 0.2	- 0.1	保合	保合	保合	- 0.1	+ 0.2	保合
紙・パルプ・同製品	3.4	+ 3.7	+ 6.7	- 0.7	- 0.4	+ 0.4	+ 0.5	+ 0.2	- 0.1	- 0.1	保合
雑品目	7.9	+ 2.7	+ 3.4	保合	保合	- 0.3	- 0.1	- 0.1	保合	+ 0.2	保合
工業製品 うち	82.0	+ 3.0	+ 3.0	- 0.2	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3	保合	保合	保合	- 0.1
大企業性	59.6	+ 2.3	+ 1.5	- 0.4	- 0.1	+ 0.7					
中小企業性	21.0	+ 4.4	+ 6.5	- 0.1	- 0.1	- 0.4					
非工業製品	18.0	+ 4.1	- 0.1	+ 0.2	- 0.3	+ 0.1	+ 0.2	- 0.3	+ 0.3	+ 0.7	- 0.3

(注) 本行調べ。

紙・パルプ・同製品、窯業製品も値上がりしたが、木材・同製品、鉄鋼、繊維品は実需伸び悩みを映じて引き続き下落した。また産業別では、工業製品が大企業性製品を中心に前月比+0.3%と6か月ぶりに反騰、一方非工業製品も鉱業生産物の統騰を主因に同+0.1%と微騰した。

なお、5月にはいつてからは、非鉄金属が海外相場の軟化から3か月ぶりに大幅反落を示したものの、食料品が牛乳の値上がりを主因にかなりの上昇を示したほか、石油・同製品、機械器具、繊維品等も上昇した。このため、上旬には前旬比+0.1%と3旬ぶりの微騰となったが、中旬には非鉄金属の統落、食料品(豚肉、牛肉)の下落から前旬比-0.1%の反落となった。

(工業製品生産者物価——反騰)

4月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比+0.5%と対応卸売物価の上昇幅(+0.3%)を上回り、昨年8月以来久方ぶりの反騰を示した(前年

同期比では-0.9%)。これは、非鉄金属(前月比+7.1%)が対応卸売物価を上回る大幅上昇となり、また石油・石炭製品(同+4.6%)がかなりの統騰を示したことが主因であるが、このほか食料品、織物、繊維二次製品、特殊鋼鋼材、紙・パルプ・同製品、窯業製品等も値上がりした。なお、合成繊維、普通鋼鋼材、電気機械器具、木材・同製品等は引き続き低落した。

(消費者物価——5月は反落)

5月の東京消費者物価指数(速報)は、総合で前月比-0.1%(前年同月比+7.6%)と、4月大幅上昇(+1.9%)のあと、再び反落を示した。もっとも、これは野菜(前月比-15.3%)、くだもの(同-7.7%)等季節商品の値下がりによるところが大きく、季節商品を除く総合では、被服が値下がりしたものの、雑費(小包郵便料、教育費)、住居、光熱の上昇を映じ、前月比+0.4%と統騰した。この結果、季節商品を除く前年同月比では+8.4%と、近年(35年以降)最高の水準となった。

なお、4月の全国消費者物価指数は雑費(新聞購読料、授業料、雑誌代)の値上がりを主因に総合で前月比+1.6%と反騰(前年同月比+6.2%)、季節商品を除く総合でも同+1.7%の大幅上昇となった(前年同月比+7.4%)。

(輸出入物価——ともに統騰)

4月の輸出物価は前月比+0.4%と昨年12月以来5か月連続の上昇となった(船舶を除くと+0.2%)。これは船舶の統騰を映じた機械器具の上昇が主因であるが、このほか食料品、金属・同製品、繊維品、雑品目もそれぞれ上昇した。なお、化学製品は引合い低調もあって統落した。

一方、輸入物価も前月比+0.6%と4か月連続のかなりの上昇となった。品目別では、鉱物性燃料、金属が統騰したほか繊維品も反騰したが、反面食料品は統落した。

なお、交易条件指数は、以上のように輸入物価が輸出物価を上回る上昇を示したため、3月(0.4ポイント悪化)に続き、4月も前月比0.2ポイントの悪化を示した。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位:%)

	ウ エ イ ト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		44年度 平均	45年度 平均	46年		
				2月	3月	4月
総平均	100.0	+2.4	+2.5	-0.2	-0.1	+0.5
食料品	12.6	+2.4	+4.3	+0.3	+0.1	+0.2
天然および化学繊維	3.0	-1.1	+6.7	+0.5	-0.3	-0.8
合成繊維	1.4	-3.1	-6.8	-0.9	-1.4	-1.8
織物	2.8	+1.3	+1.5	+0.1	-0.5	+0.2
繊維二次製品	3.2	+3.4	+7.4	-0.3	-0.1	+0.4
普通鋼鋼材	7.2	+10.2	+0.8	-1.3	-2.8	-0.5
特殊鋼鋼材その他	2.5	+3.0	+5.5	-0.3	保合	+1.0
非鉄金属	4.4	+16.5	-6.5	-1.1	+2.5	+7.1
金属製品	4.6	+2.2	+3.1	保合	-0.2	-0.1
一般機械	10.4	+1.6	+3.3	+0.1	保合	保合
輸送機械	8.3	-1.2	+0.2	保合	+0.1	+0.1
電気機械器具	9.1	+0.1	+1.1	保合	-0.6	-0.4
石油・石炭製品	3.7	-1.6	+4.6	+0.4	+1.3	+4.6
木材・同製品	5.0	+3.5	+6.3	-0.6	-0.2	-1.0
窯業製品	3.4	+1.4	+2.9	保合	+0.1	+0.3
化学製品	7.8	-1.0	-0.2	-0.3	保合	-0.2
紙・パルプ・同製品	4.5	+2.9	+6.0	-0.2	+0.3	+0.4
雑品目	6.1	+2.7	+3.2	-0.1	+0.1	+0.2

(注) 本行調べ。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近の 前月 前同 月比			
		44年度 平均	45年度 平均	46年						
				3月	4月	5月				
消 費 者 物 価	東 京	総合	100.0	+6.6	+6.9	-0.1	+1.9	-0.1	+7.6	
		(季節商品 を除く)	91.4	+5.6	+6.3	+0.1	+2.0	+0.4	+8.4	
	京	食料	40.9	+8.1	+7.4	-0.5	+0.3	-0.4	+6.6	
		住居	10.7	+3.0	+5.5	保合	+0.4	+0.5	+6.3	
		光熱	4.5	+0.3	+1.1	保合	保合	+0.1	+3.1	
		被服	13.0	+7.2	+11.0	+0.6	+0.8	-1.0	+10.7	
		雑費	31.0	+6.3	+5.7	保合	+5.1	+0.6	+8.8	
		全国	総合	100.0	+6.4	+7.3	-0.2	+1.6		+6.2
	物 価	上 の 都 市 以 外	(季節商品 を除く)	91.4	+5.2	+6.3	+0.2	+1.7		+7.4
			総合	100.0	+6.6	+7.4	-0.2	+1.7		+6.2
輸 入 物 価	輸 入 物 価	(季節商品 を除く)	91.3	+5.3	+6.4	+0.2	+1.7		+7.6	
		輸出入物価		+4.0	+3.5	+0.2	+0.4		+0.8	
		輸出入物価		+3.8	+2.4	+0.6	+0.6		+0.9	
			+0.2	+1.1	-0.4	-0.2		-0.1		

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 46年5月は速報。

◇国際収支は大幅黒字を持続

4月の国際収支は総合で421百万ドルと前月(黒字529百万ドル)に引き続き大幅な黒字となった。これは短期資本収支が輸入の停滞に伴うBCユーザンスの減少などから久方ぶりに赤字となったものの、貿易収支が大幅な黒字を続けているうえ、長期資本収支も対日証券投資の高水準から流入超となったためである。

貿易収支を季節調整後で見ると、輸出が異例の伸びを示した前月に比べれば減少(前月比-4.8%)したものの依然好調を持続(前年同月比+23%)した一方、輸入が伸び悩んだ(前月比+0.2%)ため、黒字幅は535百万ドル(前月630百万ドル)と、1~3月の月平均黒字幅(525百万ド

国際収支

(単位・百万ドル)

	45年		46年	46年		45年 4月
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	
經常収支	599	943	488	462	375	159
貿易収支	1,105	1,434	1,085	706	549	312
輸出	4,939	5,408	4,945	2,094	1,859	1,511
輸入	3,834	3,974	3,860	1,388	1,310	1,199
貿易外収支	△458	△440	△516	△185	△140	△131
移転収支	△48	△51	△81	△59	△34	△22
長期資本収支	△315	△375	△191	△93	△74	△125
本邦資本	△392	△534	△650	△317	△143	△153
外国資本	77	159	459	224	217	28
基礎的収支	284	568	297	369	449	34
	(60)	(245)	(786)	(293)	(435)	(19)
短期資本収支	244	146	116	91	72	86
誤差脱漏	122	3	196	69	44	67
総合収支	650	717	609	529	421	53
金融勘定 外貨準備 増その他	650	717	609	529	421	53
	△213	843	1,059	590	319	55
	863	△126	△322	△61	102	△2
外貨準備高	3,556	4,399	5,458	5,458	5,777	3,923
為銀対外 ポジション	1,185	1,060	866	866	1,042	397

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
4. *にはSDR配分額128百万ドルを含む。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出	輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入	信用状	認証	承認
45年7~9月	1,596 (+3.5)	1,302 (+5.3)	294	1,622 (+3.1)	1,644 (+6.6)	1,312 (+3.2)	1,709 (+5.0)	1,562 (+5.6)
10~12月	1,670 (+4.6)	1,300 (-0.2)	370	1,702 (+4.9)	1,638 (-0.4)	1,393 (+6.2)	1,794 (+4.9)	1,526 (-2.3)
46年1~3月	1,828 (+9.5)	1,303 (+0.3)	525	1,867 (+9.7)	1,630 (-0.5)	1,514 (+8.7)	1,941 (+8.2)	1,562 (+2.4)
46年1月	1,729 (+1.0)	1,287 (-1.1)	442	1,759 (-0.2)	1,632 (-0.1)	1,440 (-0.2)	1,911 (+4.6)	1,687 (+15.8)
2月	1,805 (+4.4)	1,303 (+1.2)	502	1,845 (+4.9)	1,632 (0)	1,469 (+2.0)	1,895 (-0.8)	1,438 (-14.8)
3月	1,950 (+8.0)	1,320 (+1.3)	630	1,998 (+8.3)	1,626 (-0.4)	1,633 (+11.2)	2,017 (+6.5)	1,562 (+8.6)
4月	1,857 (-4.8)	1,322 (+0.2)	535	1,884 (-5.7)	1,715 (+5.5)	1,716 (+5.1)	2,042 (+1.2)	1,459 (-6.6)

(注) 1. 四半期計数は月平均。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

ル)を若干上回った。

長期資本収支では、本邦資本の流出超が前月に
対世銀円貸付実施、船舶輸出の集中による延払信用
供与増などから著増したあと、当月は143百万
ドルと平月ベースにもどり、一方外国資本が対日
証券投資(214百万ドル)を主因に217百万ドルと高
水準の流入超を示したため、差引き74百万ドルの
黒字となった(前月赤字93百万ドル)。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	45年		46年		46年	
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	
食料品	199	165	146	55	45	
	(+18)	(+28)	(+17)	(+15)	(-14)	
魚介類	94	99	72	28	21	
	(+16)	(+20)	(+22)	(+28)	(+2)	
繊維製品	621	712	558	230	221	
	(+7)	(+8)	(+13)	(+13)	(+19)	
綿織物	48	55	38	17	16	
	(-13)	(-9)	(-5)	(-1)	(+6)	
合繊織物	166	192	150	139	61	
	(+22)	(+16)	(+23)	(+21)	(+27)	
化学製品	307	347	342	137	128	
	(+5)	(+15)	(+19)	(+24)	(+23)	
非金属鉱物製品	96	97	82	33	31	
	(-4)	(-8)	(-4)	(-1)	(-3)	
金属製品	1,009	1,039	963	427	353	
	(+31)	(+19)	(+18)	(+29)	(+15)	
鉄鋼	748	776	745	332	274	
	(+34)	(+19)	(+18)	(+30)	(+25)	
機械機器	2,276	2,632	2,504	1,070	924	
	(+22)	(+28)	(+30)	(+35)	(+32)	
(船舶を除く)	1,998	2,211	2,014	839	792	
	(+25)	(+29)	(+31)	(+35)	(+35)	
テレビ	118	108	98	42	39	
	(+7)	(+8)	(+39)	(+51)	(+55)	
ラジオ	196	194	153	62	58	
	(+20)	(+11)	(+13)	(+10)	(+5)	
自動車	360	410	438	181	184	
	(+37)	(+54)	(+66)	(+76)	(+86)	
船舶	278	421	489	231	133	
	(+8)	(+22)	(+25)	(+35)	(+17)	
光学機器	134	136	117	49	44	
	(+15)	(+10)	(+12)	(+16)	(+9)	
その他	535	512	464	194	198	
	(+14)	(+15)	(+22)	(+31)	(+35)	
合計	5,042	5,503	5,060	2,148	1,899	
	(+19)	(+20)	(+23)	(+29)	(+24)	
(船舶を除く)	4,764	5,082	4,570	1,916	1,766	
	(+20)	(+20)	(+23)	(+28)	(+25)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

金融勘定では、為銀の対外ポジションが外銀借
入れの返済などから176百万ドル改善し、外貨準備
も月中319百万ドルの増加となった。

なお、5月には貿易収支の黒字に加え、対日証券
投資や輸出前受金の流入増加などがあったため、
月中外貨準備は1,139百万ドルの著増を示し

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	45年		46年		46年	
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	
食料品	670	720	705	247	238	
	(+24)	(+23)	(+22)	(+19)	(+25)	
小麦	92	79	90	35	26	
	(+23)	(+5)	(+10)	(+14)	(+65)	
とうもろこし	64	78	65	19	20	
	(+17)	(+8)	(-12)	(-23)	(-24)	
砂糖	76	86	93	29	32	
	(+59)	(+55)	(+60)	(+37)	(+53)	
原燃料	2,703	2,821	2,775	991	951	
	(+24)	(+22)	(+15)	(+15)	(+12)	
羊毛	90	68	66	20	23	
	(-16)	(-22)	(-32)	(-41)	(-9)	
綿花	111	119	134	54	49	
	(+14)	(+15)	(+21)	(+28)	(+16)	
鉄鉱石	310	327	317	117	112	
	(+23)	(+28)	(+19)	(+32)	(+16)	
鉄鋼くず	109	64	43	15	8	
	(+67)	(-8)	(-34)	(-36)	(-68)	
非鉄金属鉱	270	265	246	82	90	
	(+31)	(+21)	(-4)	(0)	(-8)	
大豆	88	104	109	38	34	
	(+27)	(+34)	(+24)	(+50)	(+48)	
木材	419	430	387	135	120	
	(+24)	(+25)	(+15)	(+8)	(+6)	
石炭	276	297	272	98	90	
	(+50)	(+61)	(+45)	(+42)	(+9)	
原油	541	618	679	249	250	
	(+19)	(+15)	(+25)	(+21)	(+39)	
化学製品	250	257	247	83	88	
	(+28)	(+22)	(+3)	(0)	(+7)	
機械機器	557	592	644	228	201	
	(+27)	(+38)	(+15)	(+5)	(+21)	
鉄鋼	77	44	40	12	10	
	(+53)	(-33)	(-51)	(-66)	(-56)	
非鉄金属	239	206	163	55	61	
	(-2)	(-19)	(-38)	(-34)	(-17)	
その他	336	329	293	104	106	
	(+38)	(+27)	(+13)	(+12)	(+13)	
合計	4,831	4,968	4,867	1,720	1,655	
	(+24)	(+21)	(+11)	(+9)	(+12)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

た(5月末残高6,916百万ドル)。

4月の輸出(通関ベース)は、前年同月比24%増と、船舶引渡し集中や期末事情から著伸した前月(同29%増)には及ばないものの引き続き好調であった。品目別にみると、前月に続き自動車(通関ベース、前年同月比+86%)、テレビ(同+55%)、鉄鋼(同+25%)等の増加が目だった。また、地域別には、米国向け(同+34%)が自動車、テレビ、鉄鋼等を中心に前月に続き高い伸びを示したほか、西欧向け(同+25%)も自動車、船舶等を中心に大幅に増加し、東南アジア向け(同+16%)も、自動車、繊維等を中心にますますの伸びとなった。

5月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、3、4月と著伸(それぞれ前月比+11.2%、+5.1%)のあとだけに前月比では-2.9%となったが、依然高水準を続けている(原計数の前年同月比+32%)。地域別にみると、米国向けが自動車、鉄鋼、電気機械を中心に好伸(前年同月比+38%)したほか、欧州、カナダ、中南米、南ア、豪州向

けもかなりの伸びを示した。

4月の輸入(通関ベース)は、前年同月比+12%と停滞傾向を続けている。品目別にみると、食料品は小麦、砂糖を中心にかなりの増加となったが、原燃料では原油、大豆が価格高もあって引き続き高水準のほかは、生産活動の停滞や輸入分在庫の潤沢などから総じて伸び悩み、製品関係でも鉄鉄や非鉄金属地金は依然前年水準を下回っている。

4月の輸入承認額(季節調整済み)は前月比-6.6%と低調だった(原計数の前年同月比は+5%)。品目別にみると繊維原料、木材、鉄鋼くず等を中心に原燃料関係が伸び悩み、化学製品、雑品目等も伸びが鈍化した。

輸入素原材料在庫(製造業、季節調整済み)は3月の高い伸びのあと、4月は横ばいとなった。他方、4月の消費は前月(同+2.3%)の反動から1.6%減となったため、在庫率指数は107.8と、前月(106.1)をさらに上回る高水準となった。